

生駒市

(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_生駒市

【A. 取り組みの全体像】

1.自治体の概要



自治体名		生駒市 (奈良県)	担当部局名	福祉健康部地域包括ケア推進課地域共生サミット推進室	人口	116,675 (人) <2020.10/国勢調査>
自治体内連携	庁内連携部局 (メイン)	地域共生社会推進会議 (市長を会長とし、庁内全部局が参加)				
	庁内連携内容 ※会議体、情報共有	地域共生社会の推進に関する施策の協議、推進及び情報の共有等を部課横断的に行う。				

2.形成をめざす地方版連携PFの姿

従前の取り組み

※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等

庁内の連携強化のため、全部局横断の「地域共生社会推進会議」を設置(改組)。また、重層的支援体制整備事業の移行準備事業を実施。

調査	高齢者一人暮らし調査等
構想・方針	重層的支援体制整備準備事業
体制	地域共生社会推進会議、重層会議
実施	総合相談窓口の設置
評価・検証	—

実現したい状態

※構築する仕組み／支援対象の住民を取り巻く環境

最終的なゴール

今年度のゴール

・PFが孤独・孤立対策の継続的な協議の場として機能する。
・地域全体で孤独・孤立へのアンテナが高まり、孤独・孤立の問題が早期に発見され、かつ、多様な居場所が存在する。
・分野等を越えた様々な主体が協働し、福祉に限らない様々なアプローチによる、きめ細かな支援が行われる。
・PFメンバーがお互いの取組を把握し(課題や資源の共有)、顔の見える関係性を築くことで連携を強化。
・ポータルサイトを作成し、支援策や相談先等の市民向けの情報発信を強化することで相談しやすい体制を整備。

3.地方版連携PFの外部連携体制

地方版連携PF	参画メンバー	医師会・歯科医師会・薬剤師会、介護・障害福祉関係事業者、社協、商工会議所、大学、民間企業、自治連合会、民生・児童委員連合会、老人クラブ、PTA協議会等
	選出・打診時の工夫	地域共生社会の実現に向けた取組と一体的に行うため、既存の地域共生サミット実行委員会をPFの基盤とした。
地域協議会	参画メンバー	
	選出・打診時の工夫	

※各種団体が「水平的」「包摂的」に集う最も大きな枠組み

※特に専門性の高い支援をおこなう団体等で構成

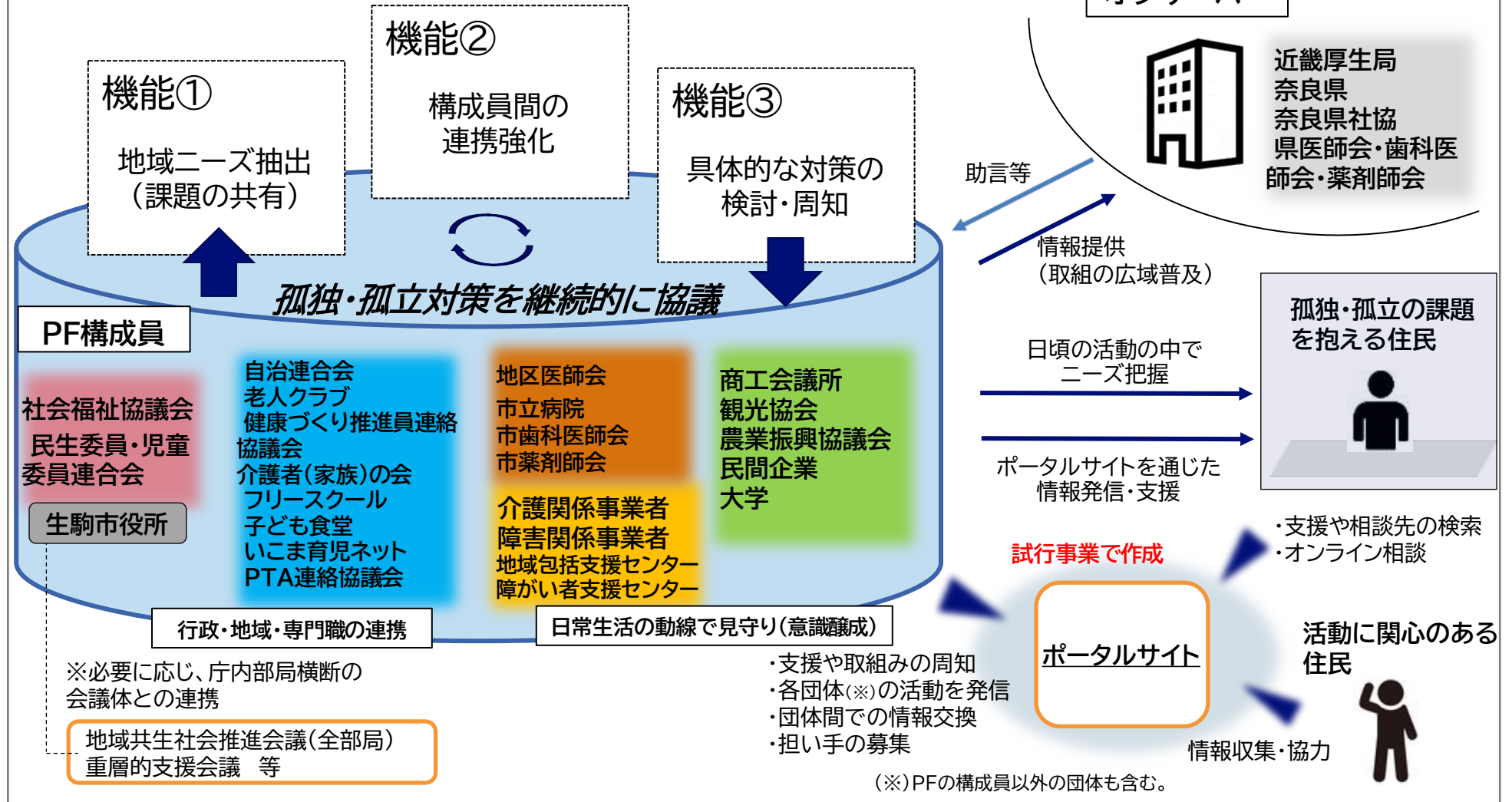
4.PF連携による価値や工夫_考え方

- 地域の関係機関が情報共有や目線合わせを行える継続的な場の設置
- 政策課題の抽出、対応策の検討、周知を一体的に行う。
- ポータルサイトを活用して、孤独・孤立の課題を抱える人に情報を届けやすく、かつ、多様な主体が関わりを持てる環境を整備する。

【B.連携PFイメージ】

5. 連携プラットフォームのイメージ図

※主な関係者（自治体、連携先支援団体、住民等）、連携における取組内容、連携による提供価値等を記載



(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_生駒市

【C.試行的事業一覧】

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の ポイント・工夫

- PF形成に向けて、市民や参画団体への認知・理解向上を進めるとともに、PF形成後の団体間での円滑な連携もサポート
- 事業間での連携による相乗効果の発揮

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）
1 先進事例の視察・シンポジウムの開催	- PF準備会の構成員による地域共生社会推進全国サミットinとよとの視察。孤独・孤立対策の先進事例を学び、構成員間の連携を強化するとともに今後の取組に反映できるよう、参加者間で意見交換等を実施。 - 孤独・孤立対策に広く関心が集まり問題意識や地域資源が共有されることを狙いとして、PFの設置を契機とした一般の市民向けのシンポジウムを実施。上記視察の成果をシンポジウムの中にも盛り込むほか、PFや今年度の試行事業についても周知し市内関係者の機運醸成を図る。	住民やPF参画団体等に対して孤独・孤立に関する問題認識の共有及び理解向上を図る。	【事例視察】 ✓ 10/12-13 【シンポジウム】 ✓ 2/18	【事例視察(約69万円)】 ・日本旅行ビジネスソリューションズ株式会社 ・いこまツーリスト（株式会社アイテム） 【シンポジウム（約76万円）】 ・日本旅行ビジネスソリューションズ株式会社
2 孤独・孤立対策に係るポータルサイト	- 市内の孤独孤立対策の支援策・相談先を一覧化したポータルサイトにコンテンツを掲載。（コンテンツの検討に当たっては、PFメンバーとの意見交換等を実施。） - 孤独・孤立に関するイベント等居場所・つながりづくりに関する情報も掲載。	市民に向けた孤独・孤立に関する情報発信、支援団体間でのコミュニケーションの円滑化。	✓ ～12月関連施策の整理・収集・コンテンツ検討 ✓ 3月開設、以後随時改善・拡充	ICO webdesign（約64万円）
3 孤独・孤立に係るアウトリーチ（訪問調査）の試行実施	- 孤独・孤立の悩みを抱えている人を地域の力で早期発見し、課題解決・伴走支援につなげていくことが重要という問題意識から、引きこもりや介護など孤独・孤立で悩んでいる人を把握するための全世代型の調査を試行的に実施。 - 具体的には、調査票を作成し、自治会・地域包括支援センターと連携した訪問調査を実施。	孤独・孤立の悩みを抱える人の把握	✓ 11月～12月 関係者調整 ✓ 1月 調査様式検討・作成 ✓ 2月 調査	(株)メディテクノサービス（約46万円）
4 孤独・孤立支援ポータルサイト啓発ステッカーの作成	多様な分野の孤独・孤立対策や支援策・相談先を一覧化した「孤独・孤立支援ポータルサイト」を開設するに当たり、「ひとりで悩まず相談することの重要性」や「具体的なつながり先」について、多くの市民に周知することを目的に、ステッカーを制作し、普及啓発を行う。	孤独・孤立の悩みを抱える人の把握	✓ 2月デザイン検討・作成	(株)昭文社（約22万円）

7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を例挙

- 孤独・孤立対策に係るポータルサイト:PFメンバーや支援団体等利用者からのFBを踏まえて改善等を図っていく予定。
- アウトリーチ（訪問調査）：本年度は、特定の地区で試行的に実施し、効果を実感できるようであれば、今後地区を広げていく、または調査票の改善等を行っていくことを想定。

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- シンポジウムは、会場はほぼ満席、加えてオンラインの視聴申込みが100人程あり、孤独・孤立に関する関心の高さを感じた。
- PFのメンバーも、当初から孤独・孤立に問題意識を持ち、又は意義に賛同いただける方が多くいた。

(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_生駒市

【C.試行的事業】_1.先進事例の視察・シンポジウムの開催

概要	- 名称：いこま孤独・孤立対策連携プラットフォーム設立記念シンポジウム 孤独・孤立～ゆるいつながりでもええやん～ - 日程：2024年2月18日（日）14時00分～16時30分 - 会場：コミュニティセンター文化ホール	結果	- 来場者数：300人程度（現地200人程度、オンライン100人程度） - 満足度：「満足」との回答が85%以上
工夫点	孤独・孤立問題・取組の自分事化や身近な取組への理解向上を狙いとした、地域で活動を実践する団体・組織関係者を中心としたパネルディスカッション	ねらい	住民やPF参画団体等に対して孤独・孤立に関する問題認識の共有及び理解向上を図る。

プログラム内容

- 基調講演：大西連政策参与
- パネルディスカッション
コーディネーター：湯浅誠（認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長）
パネリスト：溝口雅代（一般社団法人和草 代表理事）、山下博史（萩の台住宅地自治会長）、花山幸江（生駒市子ども・若者総合相談窓口コースネットいこま相談員）、西谷裕輝（一般社団法人社会福祉士事務所Bright 代表理事）
- 座談会：大西参与、湯浅氏、市長

アンケート結果

- 参加者の満足度→「満足」という回答が85%程度
- 不安や悩みを感じたときの相談先 →「家族・親族」、「友人・知人」といった回答が多い。「相談先がない」という回答はごく僅か。



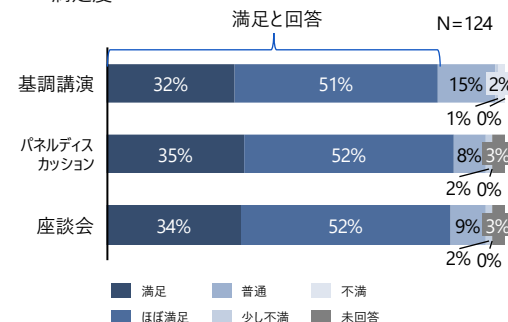
■ パネルディスカッション



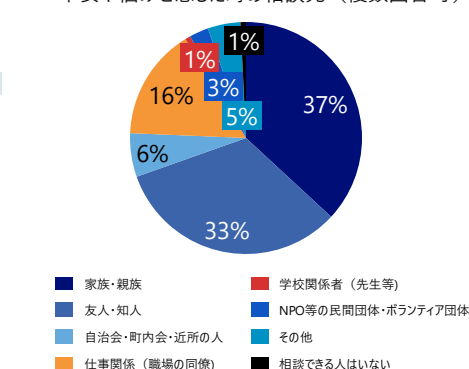
■ 座談会



■ 満足度



■ 不安や悩みを感じた時の相談先（複数回答可）



■ アンケート内容（自由記載一部抜粋）

- 孤独・孤立は誰もがなりえること、地域で支える仕組みづくりのためには、住民である自分自身が何ができるかを考えることが大切であることがよくわかった。
- 生駒市が抱える課題や生駒市での取組について、知らないことも多く、生駒に根差した活動をされているパネラーの話をきっかけに身近な地域での活動を知るきっかけとなった。
- 福祉的に難しく構えて考えず、もっとナチュラルにフック（つながり）を広げていくという考え方に共感した。

(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_生駒市

【C.試行的事業】_1.先進事例の視察・シンポジウムの開催

概要	- 視察先：第5回地域共生社会推進全国サミットinとよた - 日程：令和5年10月12日（木）、13日（金） - 参加者：「連携プラットフォーム」の構成員である40団体のうち、30団体が参加	結果 - 孤独・孤立対策の認識・理解向上 - 団体間での相互の取組理解 - PFメンバー間で相談のできる関係性の形成
工夫点	PF関係者の相互理解、孤独・孤立への理解向上を狙いとして、孤独・孤立対策に関する現状と先進事例について学ぶとともに、PFのメンバー同士の意見交換等を実施。	ねらい 孤独・孤立対策の先進事例を学び、構成員間の連携を強化するとともに今後の取組に反映する。

視察の成果

- “地域住民×福祉施設×学生”の交流の先進事例等から孤独・孤立対策に資する示唆・考え方を学んだ。
- PFメンバーからは、学生と福祉とのマッチングや地域交流による若い人の人材発掘などにより、孤独・孤立対策を進める点などについて意見があった。

- 具体的な施策や取組のヒントを得ただけでなく、PFのメンバー間において、孤独・孤立対策に取り組む姿勢への認識共有や、連携の強化が図られた。

豊田サミットで学んだ考え方・事例

株式会社musubun

- 大学3年生時、ボランティアしたい学生と福祉施設のマッチングアプリサービスを開始。
- 事業を行う中で、地域づくりの重要性に気づき事業領域を拡大。地域住民×福祉施設×学生の交流による、福祉マルシェやSDGsイベント等、地域交流を促進する取組の企画等。

みなさんが気軽に福祉体験に踏み出せる環境を提供します



プラットフォーム メンバーの意見



ボランティアしたい学生と福祉とのつながるアプリや地域交流での若い人の人材発掘により、孤独・孤立対策を進めれば、地域力がパワーアップするのでは。

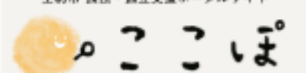
大学生らしい今どきのツールとニーズをうまく組み合わせた福祉とボランティアのマッチングについて、とても魅力的に感じました。

関連する市内の取組の例

※模倣中のものを含む。

- 孤独・孤立対策に関するポータルサイトを作成
⇒ 団体がイベント等の担い手の募集をかけたり、地域活動に参加したい人が情報収集に活用できるページを設置

生駒市 孤独・孤立支援ポータルサイト



・他の委員さんと話す良い機会をいただきましたありがとうございました。
・全てやらなくても、ほかの委員さんや市民の方たちと一緒にやれば良いことに気づかせていただきました。
・「支援する側」だと思わず、「助けられ上手」になることも共生社会実現の一步であると学びました。

子ども・若年層から引退したシニア、障がい者層まで、地域の役割を担える仕組みをつくり「地域に育てられ、地域に貢献する」という機運が高まっていけば、孤独・孤立対策を含め、様々な課題が解決していくのではないかと感じました。

多様性を認めるだけでなく、包摂(ともに)することが必要



孤独・孤立などのワードだけが先に出してしまうと、関係機関が偏ってしまいがちになるが、サミットでも言われていた福祉色を濃めることで市全体として、取り組む体制ができると感じた。

少しでも人と人が一つのことを目標として共に行動することは、重要と感じた。

市内で活躍している企業・注目すべき関係者が多く参加してもらっていることに感心した。これを契機に、是非相互の関係性を深めていただきたい。

(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_生駒市

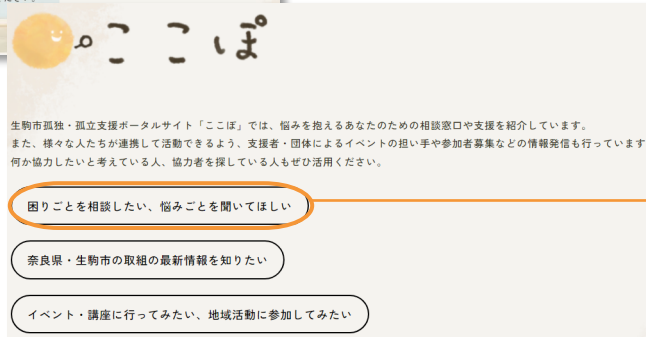
【C.試行的事業】_2.孤独・孤立対策に係るポータルサイト

概要 - 名称：生駒市 孤独・孤立支援ポータルサイト「ここぼ」 - サイト開設日：2024年2月29日（木）～	結果 サイトへのアクセス数：864
工夫点 住民に向けた情報発信だけではなく、支援団体での活動の活性化にもつながるよう、支援団体によるイベントの担い手や参加者募集も実施。	ねらい - 住民に向けた相談窓口や支援策の周知。 - 支援団体・者の取組の活性化。

概要

- 孤独・孤立に関する相談窓口や支援を紹介。
- 様々な関係者が連携して活動できるよう、支援者・団体によるイベントの担い手や参加者募集などの情報発信も実施。

- 「ひきこもり」、「子育て」、「人間関係」、「介護・高齢者」、「病気や障がい」等、幅広く孤独・孤立に関する悩み事に対する支援・相談先を掲載し、ワンストップで対応。



(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_生駒市

【C.試行的事業】_3.孤独・孤立に係るアウトリーチ（訪問調査）の試行実施

概要	- 調査機関：2024年2月1日～2月20日 - 調査対象エリア：谷田町（訪問調査数：102件／郵送調査数：145件） - 調査方法：訪問調査及び郵送調査	結果	- 回答率：訪問：51.0%、郵送：26.9% - 新たに把握した孤独・孤立を抱える人の数：21人（訪問：13人、郵送：9人）
工夫点	- 訪問調査については、地域住民と市職員又は地域包括支援センター職員の2人ペアで実施。 - 訪問調査及び郵送調査を実施することで、回収率や把握できる内容の比較検証を実施。	ねらい	- 地域の力を活用して孤独・孤立の状態にある人を早期発見する手法を構築し（調査ツールの作成、調査方法の検証）、横展開のための成果・課題を整理。 - 潜在的なニーズを含む孤独・孤立の実態把握。

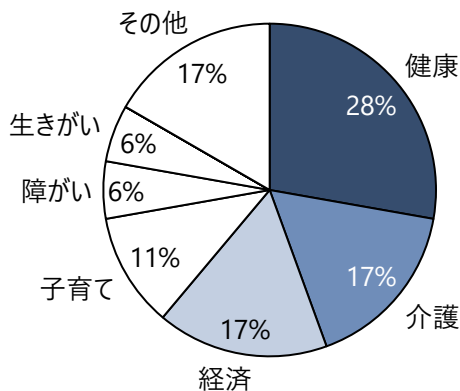
今回把握できた悩みごと

- 保育所入所の悩み、金銭面での不安、近所や夫婦間の人間関係等、幅広い分野の悩みを把握することができた。
- 外出減少等の懸念がある人について、地域包括支援センターが再訪問し総合事業につなげるなど、関係機関と連携して支援につなげた事例もあった。
- 回答者本人だけでなく、認知症の疑いがあるなど近隣住民の情報も把握できた。

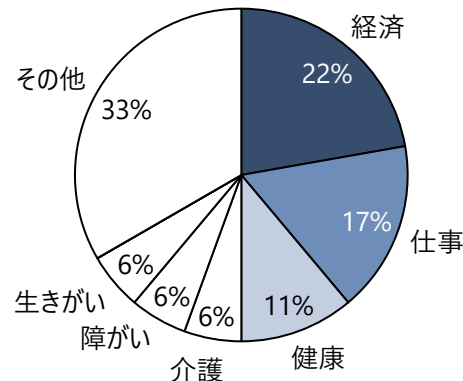
横展開を見据えた成果

- 調査を担った自治会や地域包括支援センター職員にとっても、「面識のなかった住民や地域のことを改めて知る契機となった」との声が聞かれるなど好影響があった。
- 調査票やインタビューガイドなど、調査に必要なツールを作成・試行することができた。
- 訪問調査の方が回答率が高いことや、郵送調査の場合は男性の回答者の割合が顕著に高くなることなど調査手法毎の特性を把握することができた。

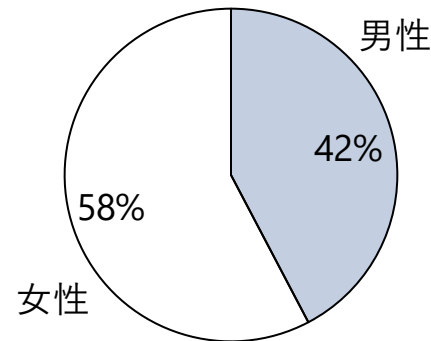
■ 訪問調査 | 悩みの類型（重複回答）



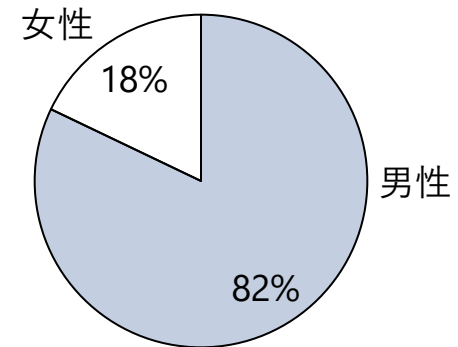
■ アンケート調査 | 悩みの類型（重複回答）



■ 訪問調査 | 回答者男女比



■ アンケート調査 | 回答者男女比



※1「教育」、「仕事」、「DV」、「虐待」、「自死」は回答がなかった

※2「その他」...ごみ出しトラブル、ひきこもり、生活環境

※1「子育て」、「教育」、「DV」、「虐待」、「自死」は回答がなかった

※2「その他」...夫婦関係、生活環境、ひきこもり、家の修繕

(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_生駒市

【C.試行的事業】_4.孤独・孤立支援ポータルサイト啓発ステッカーの作成

概要	孤独・孤立支援ポータルサイトの周知のためのステッカーを作成し市内各所に掲示	結果	掲載箇所数：約5000箇所
工夫点	- 検討過程において、PF参画メンバーとの意見交換を実施し、相談窓口の周知・認識向上が重要との意見を踏まえて実施。 - だれもが分かりやすいデザインとし、多くの公共施設等に掲示。	ねらい	市の広報紙や報道発表など、通常の周知方法では届きづらい層にアプローチするために、日常生活の動線にある施設に、かつ、大量に掲示し、自然と目につく形での周知を行う。

デザイン

- 明るい色味や温かみのあるロゴを使用するほか、載せる情報を必要なものに絞る（QRコード、サイト名、相談を呼びかける文言等）など、誰もが分かりやすいデザインを設計。

掲示場所

- 日常生活の動線上で自然と目に付くことを狙いとして、公共施設ほか、病院、事業所等の窓口や掲示板、待合室、トイレ等、人目のつきやすい場所に幅広く掲示を依頼。



掲示予定場所	箇所	配布数	合計
市内公共施設	20	10	200
PFメンバー関連施設	42	10	420
市内スーパー・コンビニ等	69	5	345
市内病院・薬局・歯科・助産院・訪問介護	220	3	660
自治会掲示板	128	5	640
さきめしいこま登録店	235	3	705
小中学校・高校・大学	22	30	660
地域包括支援センター	7	5	35
障がいサービス事業所	52	5	260
介護保険サービス事業所	118	5	590
いこま空き家流通促進プラットフォーム参画事業所	46	5	138
郵便局	11	5	55
近鉄14駅（ケーブル含む）	14	10	140
生駒市役所 各窓口・トイレ	70	1	70
合計			4,918

【D.留意点】



【E.ブレイクスルー要因】

2023年7-9月

2023 年10-12月

現在

取り組み課題

- 連携PFメンバー間での各団体の取組内容の理解が不十分
- 連携PFメンバー間での顔の見える関係（具体的な連携のできる関係）の構築が不十分

その後の変化

- 各団体間での取組内容の共有、把握
- 孤独・孤立に関する問題意識、目指すべき姿の認識共有
- 各団体間での主体的な連携・交流の増加によるPFの活性化

アクション／ブレイクスルー要因

- PF設置初期段階において、先進事例視察の機会等を利用したPFメンバー間での意見交換や情報共有の場を積極的に設けたことにより、PF構成員間の連携強化、目指すべき姿の認識共有を実現
- 特に、既存の枠組・地域活動の中で、面識はあるが具体的な連携ができる関係にまではなかった団体間での連携を強化